

2009年度 活動総括

1. 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指す取り組み

<新あずま保育園舎での保育がスタート>

老朽化と敷地面積の狭さから移転・建て替え工事が進んでいたあずま保育園の新園舎が完成し、新たな環境での保育がスタートしました。建て替えにあたっては、市との連絡調整等においてあずま保育園父母会のご尽力ありがとうございました。父母連としても新園舎での保育の様子を見学しましたが、広い園庭や廊下、バリアフリーの施設は子どもたちの使い勝手を考慮した設計となっていました。このような素晴らしい施設の整備は、市の保育施策の大きな前進です。一方で、実際に使い始めてみると「こうあってほしい」「こうなっているとより安全性が高まる」といった点も浮かび上がってきているようです。広い園庭には死角も多かったり、段差のない入口はかえって子どもたちの靴の着脱には不向きだったり、やはり実際に使ってみた現場の視点の大切さを痛感します。今後も保育園の建て替えが進んでいくと思われまます。これからも私たち保護者の声や現場の保育士の意見に耳を傾けていただき、またこれまでの建て替え工事においてあげられた改良点を考慮した園舎建て替え、保育園の新設をお願いしていききたいと思います。

<草加市長選挙にともなう候補者へのアンケート実施>

2009年度は草加市長選挙が行われました。草加市の保育園に子どもを預ける私たち保護者にとって、子育ての未来を決める大きな選挙となりました。この草加市長選挙をむかえるにあたり、父母連では3人の市長候補者に子育て行政・保育行政に関するアンケートを実施し、私たちのねがいにどう応えていただけるのかをお聞きしました。その結果、3候補のみなさんからとても誠意ある回答をいただくことができ、それぞれの候補者が草加の子どもたちをどのように育てていこうとしているのかを知ることができました。今後も市長とは増え続ける待機児への対策や、草加の保育園が培ってきた素晴らしい実践の維持・向上、自園直営方式の給食の維持と完全給食の早期実現等について、対話をすすめていけるよう、引き続き運動していこうと思ひます。

<2010年度以降のさかえ・にしまち・あさひ保育園0歳児保育の継続と

『草加市における0歳児保育施設の整備方針』の策定>

2007年7月の市主催の説明会で提示された「家庭保育室整備計画(素案)」には、「2009年度にはさかえ保育園の0歳児クラスを廃止し、近隣の家庭保育室に移行していく」との方針が掲載されていましたが、さかえ保育園父母会の署名活動等の結果、2008年度の市長懇談会において2009年度のさかえ保育園の0歳児保育の存続が決定されました。しかし2009年度に市は、「1歳児の待機児童を解消するためには、公立園の0歳児クラスを計画通りに廃止して家庭保育室に移行させていき、0歳児クラスが空きになった分、1・2歳児の定員を拡大していく」という方針を継続し、2010年度に「さかえ・あさひ・にしまち」の3保育園について、0歳児クラスの廃止と家庭保育室へ移行する計画を進めました。父母連としては2009年2月に実施した当該3園へのアンケート結果を踏まえながら、当該3園での0歳児保育を継続しながらも、ふえ続ける待機児へどう対処すべきかを市へ提言しました。そのひとつが「あずま保育園旧園舎の有効利用」でした。これについては、「園舎老朽化」「周辺道路の狭さ」「用地売却予定」等を理由(市側の説明)に実現はなりませんでした。当該3園での0歳児保育の継続は、各園父母会の粘り強い運動の成果が実り、市長懇談会において市長から「2010年度も継続」との回答を得ることができました。加えて市長からは、待機児のいる状況下で保育園から0歳児クラスを廃止することはしない旨の回答も得ることができました。私たち保護者の切なる願いを受け入れ、子育て施策に反映して下さった市長をはじめとする市のがんばりに感謝するとともに、増加し続ける待機児対策を市と一緒に考えていこうという思いを新たにしました。

その後年明けの2010年1月に、これまで素案とされてきた「家庭保育室整備計画」は「草加市における0歳児保育施設の整備方針」として策定されました。市側の説明では、これまでの「計画」に比べてより柔軟な対応が可能な「方針」として策定することで、待機児の増減に対応できるよう

配慮したとのことでした。このような市の姿勢を歓迎する一方で、この「整備方針」については、私たち保護者の視点でみると新たな特徴や疑問点が見えてきました。主な点は以下の通りです。

- ①最終整備目標年度を平成 26 (2014) 年としている
- ②育成保育のために公立保育園の敷地内に 0 歳児クラスを設けることを明記
- ③計画年度内に小規模認可保育所が整備された場合には、当該保育所に設置される 0 歳児クラスの定員数を、当該地域に整備予定の家庭保育室の定員数から減員する（つまり家庭保育室と小規模保育所はどちらかが整備されれば数にカウントする）
- ④家庭保育室の設置基準・運営基準は概ね従来通り（一方で 2010 年 4 月から入室申込み方法がこれまでの各家庭保育室への直接申し込みから、市の窓口申し込みとなった）
- ⑤新たに家庭保育室の開設を希望する者に対して、開設前に公立保育園で実習を行う
- ⑥市主催で家庭保育室保育従事者を対象とした研修会を行う
- ⑦公立園と家庭保育室合同で「健康診断」「おたのしみ会」「クリスマス会」を行う（健診は無料となる）。また公立園の園庭、プール、遊具は共同で利用する
- ⑧公立園での職員会議や研究会に家庭保育室の保育従事者が参加する
- ⑨家庭保育室の在室児や保護者が疾病・けがの場合における保育料の減額・減免の導入
- ⑩家庭保育室でのミルク代を無料とする
- ⑪4 月入室児の健康診断代を無料（保育園で合同実施）
- ⑫2 ヶ所送迎支援：各園 3 人から 6 人を上限として、近隣の家庭保育室への優先的な入室を市が斡旋
- ⑬家庭保育室を退室時（年度途中退室を除く）以降の保育園入園を確定
- ⑭年度当初定員割れの場合に家庭保育室へ補助を行う

歓迎すべき点がある一方で、本当に実現できるのか不透明な点や、現場の保育士や家庭保育従事者の意見を十分吸い上げていないのではと見受けられる点もあります。何より、これだけ家庭保育室が担う役割が大きくなるにもかかわらず、家庭保育室への運営補助が具体的に記載されていないことに問題点を感じます。これまでの家庭保育室への人件費補助や家賃補助は十分とは言えず、父母連としても要望してきているところです。公立園での 0 歳児保育が継続されながら、今後家庭保育室がこの整備方針通りに増えていくとすれば、時期によっては定員割れとなる家庭保育室がこれまで以上に増える可能性があります。そうなると増えた家庭保育室が安定的に運営されず、これまでの質の高い家庭保育室の維持が困難になっていくことも想定されます。今後の市との話し合いにおいては、引き続き家庭保育室の安定的な運営について要望していきたいと思っています。

大切なことは、これからの草加の子育てについて「草加市一家庭保育室・公立保育園の職員一利用者である市民（保護者など）」が十分に話し合い、「草加市全体の保育の底上げ」と「喫緊の課題である待機児童解消」に結びつく施策の実現に向けて、協力し合わなければならないことであると強く感じています。

<第 2 きたうら保育園の閉園>

第 2 きたうら保育園については、きたうら保育園の園舎建て替えに伴い作られた仮設園舎を使用する形で 2004 年に開園となり、当初から「5 年を年限とする存続」としてスタートしました。また受け入れ年齢の段階的廃止（最終年度は 5 歳児クラスのみとなる）も導入されましたが、その後増え続けた待機児童対策として、2009 年度末の閉園まで 3・4・5 歳児クラスが存続しました。一昨年から爆発的な待機児童増加の中、閉園になるのはとても残念でしたが、園舎の立地条件等の諸々の要件において存続は難しく 2010 年 3 月をもって閉園となりました。待機児童が増える中、草加の子どもたちが豊かに育まれたとても大切な場所でした。第 2 きたうら保育園存続に対するこれまでの草加市のがんばりに感謝するとともに、今後も待機児童対策として保育園の新設をお願いしていきたいと思えます。

2. わかりやすく、やりがいのある父母会・父母連づくりへの取り組み

<父母連ニュースの発行>

各保育園の保護者の皆さんに、父母連としての活動や各園での取り組みについてわかり易くお伝えするために、毎年事務局からは「父母連ニュース」を発行しています。

2009 年度は、計 8 回発行(4/1・6/13・7/11・9/12・10/17・11/14・2/13・3/6)し、「入園・進級お

めでとう号」／『第24回父母連総会報告／2009年草加市保育事業説明会の報告／2009父母連アンケートのお願い／2009年度草加市長選挙候補者アンケート結果について／2009父母連アンケート集計結果報告／育成保育保護者会報告／第46回草加母親大会報告／2009市長懇談会報告／保育「新制度」学習会報告／発達保障プロジェクト保護者交流会報告／第18回草加子育てのつどい報告／第10回草加子育て団体交流会報告父母連役員告示、等々についてお伝えしてまいりました。よりわかりやすいニュース作りをめざし、2010年度も取り組んでいきたいと思っております。ご意見等ございましたら、各父母会役員もしくは父母連メール info@soka-fuboren.org までお願いします。

<会長会・代表者会の開催／各父母会分担体制により皆で支え合う父母連活動>

2009年度は年3回の会長会（6・9・1月）そして年11回の代表者会（5・6・7・9・10・11・12・1・2・3・4月）を開催してきました。会長会では各園の状況や父母会運営についての情報交換などが行われました。代表者会では、①父母連事務局から各園への様々な事務伝達や報告 ②父母連活動方針や内容の検討 ③各園からの報告 ④保育情勢などに関する学習 などを行いました。各園の会長や代表者の皆さん、ご協力ありがとうございました。今年度の会議を通して出されましたご意見・反省点は、是非2010年度に生かしていきたいと思っております。

また、専従のいない父母連活動を皆で支えて行こう！との確認のもと、2009年度は、2008年度に引き続き「父母連活動分担年間予定表」にもとづいて、印刷作業などの父母連事務局の仕事を各父母会と分担し合いながら活動を行ってきました。お陰様で、事務局の負担も軽減されました。ご協力ありがとうございました。

<父母連アンケート（6月）の実施や市長懇談会（10／23）への取り組み>

父母連の活動は、各園の保護者の皆さん一人ひとりの声が集まって初めて可能となるものです。そのためにも各園の声を会長会や代表者会で直接情報交換し合うと共に、年に1回、1600全世帯に父母連要求アンケートを行い、一人ひとりの声を市への要望書や保育改善運動に反映させるための大変重要な取り組みを行っています。その集計結果は父母連ニュースにてご報告したり、集計結果を冊子にして各園にお配りしたりしておりますので、皆さんで回覧されたことと思っております。

2009年度も父母会毎にアンケートの記述部分を父母連事務局配布のフロッピーにまとめていただいたり、父母連ホームページから引き出した書式にまとめたものを父母連メールにて送付していただいたりするなど、集計作業がより効率化でき、皆さんの意見をまとめることができました。担当していただきました皆さん、ご協力をありがとうございました。2009年6月に実施した父母連アンケートの結果、次のような傾向がみられました。

- (1) 0・1・2歳児の家庭では7割以上が、3・4・5歳児の家庭では4～5割の家庭が「保育料が高い」と感じている。
- (2) 保育内容や給食には8割以上が「満足」「まあ満足」、クラスの人数は約7割が「適正」と感じているが、施設・設備については「満足」「まあ満足」を合計しても5割の回答である。
- (3) 緊急待機児対策としての定員弾力化についての回答は「良い25%」「仕方ない43%」「やめてほしい29%」である。現状に鑑み7割弱が理解を示しているが、安全面や今後の定員弾力の常態化等を心配する意見が多数寄せられている。
- (4) 7割が時間外・延長保育を利用している。全世帯の1.5割が二重保育を余儀なくされており、その内訳は3割がファミリーサポート事業の利用、6割が知人・祖父母に預けている。
- (5) 完全給食を望む声は多く、「主食代を負担しても実施希望」の割合は約7割弱となっている。
- (6) 実現を望む項目の第一位は例年同様「保育料の引き下げ」であるが、第二位が「完全給食」「病児保育」と横並びの結果となっている。
- (7) 昨年度に比べて、「0歳児保育の全園実施・保育職員の増員・保育園の新設」の実現を望む割合が、6～10%増えている。

これらのアンケート結果や各父母会のご意見をもとに要望書などを作成し、2009年度は10／23に開催された「市長懇談会」での話し合いなどに反映させました。

その結果、①「さかえ・にしまち・あさひ保育園の2009年度の0歳児保育の継続実施」や、②「今後待機児が出ている状況下においては公立保育園の0歳児クラスを廃止することはしない」な

どの市の回答を得ました。また③家庭保育室における育成保育を「対応できる」、④育成保育のために「一部公立保育園に0歳児クラスを設けることを検討」⑤やつか保育園の建て替えを行う、との回答を得ました。一方で⑥保育園の耐震診断の予定はなし、⑦定員弾力化については、最低基準を遵守しながら行っていく、⑧全園延長保育は待機児対策のために遅れている、⑨完全給食については待機児対策のためにすぐに実現できない、家庭で主食を用意することに意義があるとの回答も得ています。

またこの市長懇談会を受けて、2010年1月にこれまで素案とされてきた「家庭保育室整備計画」は「草加市における0歳児保育施設の整備方針」として策定されました。この整備計画を含め、市長懇談会当日に扱いきれなかった、多岐に渡る父母連要望に対する市の回答書の概要は、2010年1月に各保育園父母会にお配りしておりますので、ご参照ください。

上記の保育施策上の前進については、市の尽力に感謝するとともに、私たち保護者の思いが市政に反映されたことをともに喜び合いたいと思います。今後も、一人ひとりの声や各父母会の声を大切にしながら、大きな父母連の動きにつなげていきます。

<父母連ホームページの充実>

2006年度に立ち上げた父母連のホームページですが、2007年度以降は父母連の活動をより多くの方に知っていただくために「父母連の活動／草加市の保育園／これからの予定／おしらせ」などの内容の更新に力を入れてきました。専従体制のない中でなかなか更新がままならない時期もありましたことをお詫び申し上げます。一方でこれまで以上に父母連メール info@soka-fuboren.org を通して、皆様のご意見・ご質問をキャッチし、父母連事務局としてできるだけ迅速に対応できるようになりました。2009年度も、ホームページや父母連メールが情報発信の役割だけではなく、相互に情報交換できる役割も果たせるよう工夫しながら管理・更新を行ってきました。例えば、さまざまな回答用紙のダウンロードや回答のメール送信、問い合わせなど、父母連事務局と各父母会とがお互いにWebを通してやりとりを行う回数が増え、利用回数も増えました。

今後も父母連ホームページや父母連メールを通して、父母連活動が父母連会員一人ひとりにとって身近でわかりやすく、リアルタイムに声を反映できるよう工夫していきたいと思います。

3. 私たち自身が楽しく学べる組織活動をつくる取り組み

<「保育『新制度』学習会」(10/30)の開催>

2009年2月に厚生労働省・社会保障審議会少子化対策特別部会がまとめた保育「新制度」についての「第1次報告」は、非常に衝撃的でした。その内容は、現行保育制度の根幹をなす児童福祉法24条にもとづいた市町村の保育実施責任をなくし、保護者の自己責任で保育所に入所させなければならないことや、「応能負担」から「応益負担」への変更等、日本の保育システムを180度転換するものでした。父母連では、こうした大転換について私たち保護者がきちんと情報を得ることが必要と感じ、保育研究所の逆井直紀さんを講師に招き、「新制度」についての学習会を開催しました。学習会では現行保育制度の良さを再確認し、また保育最低基準撤廃等の動きについて「現在でさえ、世界的水準から比べても最低レベルの最低基準をさらに撤廃すれば保育環境はより劣悪なものとなる」との認識を新たにしました。こうした学習会を通して子育て・保育行政の問題点を明らかにし、各父母会の精力的な署名活動等へつなげていくことができました。

<「第18回草加子育てのつどい」(2/14)の開催>

2009年度も一昨年同様、父母連・草加市職員労働組合保育部会・草加市家庭保育室連絡会・NPO法人さくらんぼ・NPO法人子ども広場草加おやおこ劇場との共催で「第18回子育てのつどい」を勤労福祉会館で行いました。市内の家庭保育室をはじめとする参加団体による、日頃の保育の様子を紹介するパネル展示が行われました。父母連は「新保育制度をテーマにしたパネル」や「市内の子育てサポート一覧」を作成・展示し、情報と学びを提供しました。

つどいの全体企画では、「さいたま市めだか保育園長 黛秋代先生による“脱・イライラ子育て！”のテーマでの講演会」を行いました。ご自身の保育園での出来事などのお話の他、実際に保育園舎を使って最低基準通りの保育の問題点を検証したこと等、現在の保育行政や保育を取り巻く諸問題

についてもお話しいただき、私たち保護者もこれからの保育について「他人事と思わず、自分のこととして知り・学んで・考えていかなければならない」と強く感じました。一方子どもたちは、あさひ保育園にておさるパフォーマンスを楽しみ、非常に楽しいひと時となりました。なお感想アンケートのまとめや報告については、父母連ニュース3月号にてお届けしました。

2009年度のつどいには、ご公務でお忙しい中、山川百合子県議会議員や関一幸市議会議員のご参加もいただき、ともに学びを共有できましたことを心よりうれしく思います。2010年度も、参加して良かったと思える企画を行っていきたいと思います。

<各園父母会主催「CAPワークショップ」への補助>

2009年度の「CAP（Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止）ワークショップ」は各父母会企画で行い、父母連としては大人ワークショップの講師交通費と子どもワークショップ1回分の講師交通費を補助する形で応援してきました。2010年度も子どもを守る取り組みを支援することを目的に、各園への補助を行っていく予定です。

4. 共同の輪を広げる取り組み

<「第10回草加子育て団体交流会」（2/14）の実施～より幅広い交流へと～>

公立保育園保護者だけではなく、公立保育園職員、家庭保育室連絡会、NPO 法人こども広場草加おやこ劇場等の市内のさまざまな子育てサポート団体と交流をもち、互いの活動や課題を話し合い、皆で手をつないで草加の子育てを良くしていこう！という目的のもとに行っています。2009年度もより交流を深めることができました。

交流を通し「職員確保の問題」「待機児問題と0歳児保育のあり方」「草加子ども文化の日』構想」などの課題や、これからの取り組みの方向性などについて共通認識することができました。全ての子どもたちにとってのより良い育ちの環境づくりをめざして、今後も横のつながりを大切にしながら交流していきたいと思います。

<「第4回育成保育保護者交流会」（9/26）の実施/>

「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」（11/29）に参加>

草加市内には公の早期療育施設が少なく、障がいのあるお子さんの待機児が数多くいるのが現状です。特に両親共働きの家庭においては、市の育成保育制度を利用することとなります。そのような状況で、保護者同士の交流や情報交換の場として父母連が提供してきている「育成保育保護者交流会」が今年も開かれました。育成保育保護者のみなさんの交流の輪が着実に広がっています。この場で出た意見は市への要望書などに反映させるとともに、「もっと就学に関する情報がほしい」との要望を受けて、学童保育の会主催の「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」に今年度からは父母連事務局が実行委員会に参加させていただきました。同じ立場の先輩保護者の皆さんから伺うお話しは、就学前・就学後の親の思いや子どもの様子がよくわかり、実際に顔を合わせた交流による悩みや情報交換の大切さを感じました。是非今後も、「育成保育保護者会」の実施や「学童発達保障プロジェクト保護者交流会」への参加を継続していきたいと思います。

<民主教育をすすめる草加市民会議>

主に小中学校・高校の教育の課題に取り組むゆるやかな集まりで、父母連も団体で加入しています。少人数学級の実現や市内の小中学校の給食の民営化問題、定時制高校廃止問題等私たち保育園保護者が数年後に当事者として直面する学校教育をめぐることがらを、学校の先生、学童保育の指導員や保護者、女性団体と日常的に意見交換やとりくみを作っています。父母連からは保育情勢を発信し、この会にあつまる市民との共有や一緒のとりくみをすすめています。

<草加母親大会>

「生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」を合言葉にした半世紀以上の長い歴史のある、母性を核にして暴力と貧困のない世の中作りを取り組む運動体に、草加父母連も加入しています。9月の草加母親大会（勤労福祉会館）の乳幼児分科会には父母連が運営責任団体としてかかわりました。